

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容等をファシリテーター及び事務局がまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

勉強会＜合同＞第 6 回（9/14）開催概要

9月14日（土）に勉強会＜合同＞第6回が開催され、沼津駅周辺地区及び原地区から37名のメンバー（うち、代理人2名）が参加しました。冒頭、代替案や今後の進め方について参加者からの質問と事務局の回答が紹介されました。例えば、原地区やその他の近傍駅へ貨物駅を移転する場合の用地取得の方法等に関する質問では、原地区画では従来通りに市が用地買収を行うことが想定されるが、現計画とは異なる鉄道施設となる代替案では改めて関係機関との協議を要することなどが説明されました。また、ステップ6「推奨案」の市民への説明機会についても質問があり、PI 実施計画に基づいて、検討状況をホームページや広報紙、オープンハウスで報告するとされました。ここで、PI 委員会からの助言を受け、グループでの検討時間を優先し十分に確保すること、前向きな思考で他の人の意見に耳を傾けること、資料に基づいた議論を行うことなどが参加者への要望として事務局から挙げられました。

ステップ5「代替案の比較評価」の検討は、中立的な第三者であるファシリテーターの進行のもと進められました。当日の検討の目的は、各代替案のメリットやデメリット、可能性やリスクなどを確認すること、さらに、より効果を上げるための条件、どの代替案であっても配慮されるべきことを明確にすることとされました。

代替案2、4、7は、事業費が大きいことがデメリットであるとして事業範囲の限定など事業費の削減努力が要望されました。関連して、現在の市財政は県内の水準と比べて良好とのデータが示されたことを受けて、大きな投資効果を狙う都市整備の実現性に期待が示された一方で、今後の福祉費や他の土木関連事業費の負担を含めた際の市財政への負荷を懸念する声もありました。また、土地区画整理事業に伴い床面積が比較的大きく確保されると評価されている点については、面的整備が必ずしも地域の活性化につながらないと疑問視する声がある一方で、公共のインフラ整備がなされるからこそ民間投資が期待されるとの考えが改めて出されました。また、原地区における各種の用地取得については、代替案2（原A）とそれ以外の案では、地元住民の受け入れ易さや合意形成等の課題がそれぞれ異なる点について指摘されました。

代替案9、10、12、13については、都市計画変更に伴うデメリットとして、新しい案への合意形成、土地区画整理事業等が事業中止となった街の生活設計、補助金返還のリスク等、具体的な懸念が挙げられました。メリットとしては、特に代替案9、12は、現状に比べて自動車交通や歩行者交通の改善が図られる点が強調された上で、道路整備を必要最低限の範囲とするなど効率的な整備があげられています。代替案10、13については、早く、安くできる案であるものの、地域づくりとしては不足しており他のソフト施策等での補完等の必要性が指摘されました。

また、どの代替案にも共通して、今後の具体検討プロセスの明確化とそのプロセスへの市民参加の担保が要望されました。

参加者からの質問を受けて、技術検討アドバイザーの監査等についてPI委員会石田委員長から補足説明がありました。財政分野についても適任者を探している段階であること、検討資料に加え勉強会等記録を情報提供した上で監査を依頼していること、検討資料及び監査結果は公表されること等が説明されました。

最後に、PI委員会委員から当日の勉強会への感想が述べられ、寺部委員からは目的に沿った建設的な議論となっていた点が評価されました。また、石田委員長からは、当日のグループ検討が「論の争い」ではなく、勉強会＜合同＞第1回における小講演にて提案した「知恵の出し合い」であった点を評価した上で、事務局に対して、市民の意見を重く受け止め、単にどの案が良いのか決めるのではなく、今後の参加の体制づくりが大切なポイントであるとの助言がありました。

次回10/19（土）は、沼津駅周辺地区と原地区の合同の勉強会＜合同＞第7回（最終回）が開催される予定です。